

公益財団法人富山第一銀行奨学財団

理事長 横田 格 殿

## 助成研究成果概要報告書

教育機関名 : 富山短期大学	助成金額 :	500 千円
研究代表者 : 小平 達夫	所属 : 健康福祉学科	職位 : 准教授
研究題目 : 国際労働移動システムから見るメゾ構造より捉える介護技能実習生制度の持続化に向けた研究 ～3者(技能実習生、受入施設、送り出し国側)からの視点より～		

## 研究概要

## 1. 研究の背景

小平(2021)はベトナム人介護技能実習生の特色ある国際労働移動システムを解明した。その特色ある国際労働移動システムは、ミクロ構造(個人)、メゾ構造(技能実習生、送り出し機関、管理団体、受入施設)、マクロ構造(国家間)の3層構造で、今回は、メゾ構造の視点より介護技能実習制度の持続化に向けた研究を行った。

介護技能実習制度の持続化のために本制度に深くかかわる3者、つまり技能実習生、受入れ機関、送り出すベトナム(送出し機関・介護施設、看護系教育機関)の観点より捉える必要があり、今回の報告書では、介護技能実習生の視点から見てみたい。

具体的には、ベトナム人介護技能実習生を対象に調査を行い、当該技能実習に対する技能実習生の評価と本人の職務態度—職務満足と職務関与—との関係性、ならびに個人と組織との適合性(P-O fit)が、職務満足と職務関与に与える影響力を明らかにした。

## 2. 個人—組織適合

個人と組織の適合(Person organization fit: P-O fit)は、人と組織の間の適合性として広く定義されている(Kristof, 1996)。とくに採用に関する研究では、応募者と組織の適合性として概念化されている(Judge & Ferris, 1992; Rynes & Gerhart, 1990)。P-O fit(個人—組織適合)は、競争の激しいビジネス環境や労働市場で必要な柔軟で献身的な労働力を維持確保するための鍵なのである(Bowen, Ledford & Nathan, 1991; Kristof, 1996)。

## 3. 研究目的

本研究では、個人—環境適合理論(person-environment fit: P-E fit; Cable & Jude, 1994; Kristof, 1996)及び仕事適応理論(theory of work adjustment: TWA; Chatman, 1989)を踏まえ、技能実習に対する介護技能実習生の知覚を独立変数、職態態度(職満満足・職務関与)を従属変数、個人—組織適合を媒介変数とする。Sekiguchi(2014)が指摘している米国は仕事に適した人材を見つけることに焦点を当てているが、アジア地域は集団主義的な特性が強く、P-O fitが採用時に優先されることを指摘している。今回、ベトナム人介護技能実習生を対象としてP-O fitの媒介の影響力について実証検証をおこなうものである。

## 4. 仮説の設定

仮説1: 技能実習に対するポジティブな知覚(PIED)は、個人—組織適合(P-O fit)に正の影響を与えるであろう。

仮説2: P-O fitは職務満足に対して有意な正の影響を与えるであろう。

仮説3: P-O fitは職務関与に対して有意な正の影響を与えるであろう。

仮説4: 個人—組織適合(P-O fit)は、ベトナム人介護技能実習生の技能実習に対する知覚(PIED)と職務

満足との間を媒介するであろう。

仮説 5：個人—組織適合（P-O fit）は、ベトナム人介護技能実習生の技能実習に対する知覚(PIED)と職務関与との間を媒介するであろう。

## 5. 研究方法

### 5.1. 調査対象

調査は 2022 年 4 月上旬から 5 月下旬にかけて、日本国内に在住するベトナム人介護技能実習生を対象に実施した。メールにて直接的にベトナム人介護技能実習生、間接的に複数の実習施設、複数の管理団体に調査趣旨の説明を行った。そして、本調査への協力に同意する場合、インターネットにてアンケートに回答してほしい旨を説明した。結果として、163 名が調査協力し、135 人より有効回答を得た（有効回答率 82.8%）。質問文はベトナム語と日本語を併記した。

## 成果要約

### 6. 結果

各尺度の記述量および相関関係を算出した。各変数の相関を求めたところ、「職務満足」に関しては、「技能実習に対する知覚」( $r=.540, p<.01$ )、「P-O fit」( $r=.423, p<.01$ )との間に正の相関関係が見られた。また、「職務関与」に関しては、「技能実習に対する知覚」( $r=.433, p<.01$ )、「P-O fit」( $r=.451, p<.01$ )との間に正の相関関係が見られた。

まずは、仮説 1 から見てみたい。階層的重回帰分析の結果より技能実習に対する介護技能実習生の知覚は、個人—組織適合（P-O fit）( $\beta=.46, p<.001$ )に対して有意な正の影響を与えることが明らかになった。よって、仮説 1 を支持するものである。

次に、仮説 2 を見てみたい。個人—組織適合（P-O fit）( $\beta=.24, p<.001$ )が職務満足に対して有意な正の影響を与えることが明らかになった。よって、仮説 2 を支持するものである。

次に、仮説 3 を見てみたい。個人—組織適合（P-O fit）( $\beta=.28, p<.001$ )が職務関与に対して有意な正の影響を与えることが明らかになった。よって、仮説 3 を支持するものである。

最後に、仮説 4、仮説 5 を見てみたい。技能実習に対する介護技能実習生の知覚と職態度である職務満足、職務関与との関係における個人—組織適合（P-O fit）の媒介仮説について検証する。仮説 4、仮説 5 の検証のため、Baron and Kenny (1986) に従って媒介効果を検討する。媒介効果が確認されるためには(1)従属変数（職務満足と職務関与）に対して、独立変数（介護実習知覚）が有意な直接効果を与えていること、(2)媒介変数（P-O fit）に対して、独立変数（介護実習知覚）が有意な直接効果を与えていること、(3)従属変数（職務満足と職務関与）に対して媒介変数（P-O fit）が有意な直接効果を与えていること、そして、(4)従属変数（職務満足と職務関与）に与える独立変数（介護実習知覚）の直接効果が、媒介変数（P-O fit）を重回帰式に投入した場合、どの程度弱まるかに関する 4 つの検証が必要である。

(1)従属変数（職務満足と職務関与）に対して、独立変数（介護実習知覚）が有意な直接効果を与えていること（ $\beta=.51, p<.001$ ）、（ $\beta=.38, p<.001$ ）となり、従属変数（職務満足と職務関与）に対して、独立変数（介護実習知覚）が有意な直接効果を与えている。

(2)媒介変数（P-O Fit）に対して、独立変数（介護実習知覚）が有意な直接効果を与えていること  
技能実習知覚は、P-O fit（ $\beta=.46, p<.001$ ）に対して、有意な直接効果を与えている。

(3)従属変数（職務満足と職務関与）に対して媒介変数（P-O fit）が有意な直接効果を与えていること

階層的重回帰分析の結果から、P-O fit が職務満足（ $\beta=.24, p<.001$ ）と職務関与（ $\beta=.28, p<.001$ ）に対して有意な直接効果を与えている。

(4)従属変数（職務満足と職務関与）に与える独立変数（介護実習知覚）の直接効果、媒介変数（P-O fit と P-J

fit) を重回帰式に投入した場合、どの程度弱まるか。

P-O fit の媒介効果に関して、分析の結果、職務満足と職務関与に有意な直接効果を及ぼしていた技能実習知覚の効果が、P-O fit を重回帰式に追加投入した場合、職務満足においては( $\beta = .51, p < .001 \rightarrow \beta = .40, p < .001$ )と若干の弱まりが確認された。また、P-O fit の媒介において、係数の減少の有意性を確認するためにソベルの方法にて試みたところ、2.62 となり、間接効果がゼロという帰無仮説は棄却され、P-O fit の部分媒介が明らかになった。

職務関与においては( $\beta = .38, p < .001 \rightarrow \beta = .25, p < .001$ )と若干の弱まりが確認された。同じく、P-O fit の媒介において、係数の減少の有意性を確認するためにソベルの方法にて試みたところ、2.65 となり、間接効果がゼロという帰無仮説は棄却され、P-O fit の部分媒介が明らかになった。

## 7. 考察

これまで、介護技能実習生に対する研究は行われておらず、今回、本研究では、ベトナム人介護技能実習生の介護実習知覚(PIED)と職務満足、職務関与との関係における P-O fit の媒介効果について検討した。結果として、P-O fit (個人-組織適合) は部分的に媒介していた。

部分的な P-O fit の媒介効果により職務満足および職務関与は高まるが、介護実習に対してポジティブに捉えていると、職務満足および職務関与も高まる。つまり、受け入れ施設・病院(以下、受け入れ施設、病院等)での実習プログラム、日本語能力の向上に向けた講座、キャリアカウンセリング、1日の業務の終了後の振り返り等の積極的な指導やサポートを技能実習生が認知していると、仕事に対する満足感や、仕事へのやりがい、興味、愛着が高まる。また、職場の価値観や組織文化への高い共感も仕事への満足感や高いやりがい感につながる。

今回の結果より日本の受け入れ施設、病院等は、技能実習生の主な来日理由は高い収入であるが、技能実習の本来の目的である介護技術・技能の習得に対しても満足を示すと仕事への満足感ややりがいに繋がっていること、そして、組織への高い適合性も満足感ややりがいに繋がっていることも理解しなくてはならない。つまり、受け入れ先は技能実習生の自己成長意欲に応えること、受け入れ先の理念、方針、ミッション等を技能実習生に対して丁寧に説明することが求められる。

これまでの日本側の多くの受け入れ施設、病院等は、日本の学生に対しては、職場説明会、職場見学会、職場職員との座談会等を実施し、丁寧なプロセスでの採用活動を実施しているが、技能実習生の採用において、受け入れ先の理念、方針、ミッションについて説明を行わず、いきなり面接を実施していた。また、送り出し機関も本国の技能実習生よりもビジネス優先で一人でも多く日本に送り出すことを優先してきた。このやり方は、日本での収入が高く魅力があった場合には成立していたが、他国と介護人材獲得の競争の厳しさが増す中で、現在の円安日本ではもう立ち行かなくなってしまうであろう。例え、ベトナムからの技能実習生の確保を諦めて、まだ日本との経済格差で呼び寄せることができる国をターゲットにしても、いずれその国も経済発展し、ベトナムのようになるであろう。果たして日本は、この繰り返しでよいのであろうか。

これから受け入れ施設、病院等は、技能実習生の確保において、現地の送り出し機関に頼るのではなく、自ら現地に赴き、技能実習希望者に対して受け入れ法人の理念、方針、ミッション等そして、それらを具現化するための介護とキャリアパスを含めた技能実習の全体プログラムを説明することが重要である。

また、Kristof(2005)は、従業員の職務態度に対する P-O fit において、転職意思に対して有意な負の影響を及ぼすことを明らかにしており、技能実習3号または特定技能1号(介護)として引き続きの定着を技能実習生に望むのであれば、P-O fit への実践が求められる。

【引用文献】

- Bowen, D. E., Ledford, G. E., & Nathan, B. R. (1991). Hiring for the organization, not the job. *Academy of Management Perspectives*, 5(4), 35-51. <https://doi.org/10.5465/ame.1991.4274747>
- Cable, D. M., & Judge, T. A. (1994). Pay preferences and job search decisions: A person-organization fit perspective. *Personnel Psychology*, 47(2), 317-348. <https://doi.org/10.1111/j.1744-6570.1994.tb01727.x>
- Chatman, J. A. (1989). Improving interactional organizational research: A model of person-organization fit. *Academy of Management Review*, 14, 333-349.
- Judge, T. A., & Ferris, G. R. (1992). The elusive criterion of fit in human resource staffing decisions. *Human Resource Planning*, 154, 47-67.
- Kristof, A. L. (1996). Person-organization fit: An integrative review of its conceptualizations, measurement, and implications. *Personnel Psychology*, 49(1), 1-49. <https://doi.org/10.1111/j.1744-6570.1996.tb01790.x>
- Kristof-Brown, A., Zirnmerman, R., & Johnson, E. (2005). Consequences of individuals' fit at work: A meta analysis of person-job, person-organization, person group, and person-supervisor fit. *Personnel Psychology*, 58(2), 281-342.
- Rynes, S. L., & Gerhart, B. (1990). Interviewer assessments of applicant "FIT": An exploratory investigation. *Personnel Psychology*, 43(1), 13-35. <https://doi.org/10.1111/j.1744-6570.1990.tb02004.x>
- Sekiguchi, T. (2004). Person-organization fit and person-job fit in employee selection: A review of the literature. *Osaka keidai ronshu*, 54(6), 179-196.
- 小平達夫,2021.「介護技能実習制度に伴う外国人ケア労働者の日本社会への流入」.富山大学大学院人文社会科学部研究科修理論文.p25-28.

研究成果発表状況	雑誌論文、学会発表、図書、新聞掲載、作成 Web ページ、特許権等の出願・取得状況		
	立命館大学大学院人間科学研究科人間科学専攻博士課程後期課程 博士論文.に掲載		
経費の執行状況	区 分	執行額(円)	備 考
	【物品費】	141,362	パソコン・周辺機器等
	【旅費】	333,342	ベトナム (ハノイ等)
	【その他】	25,296	セミナー参加費等

公益財団法人富山第一銀行奨学財団

理事長 横田 格 殿

## 助成研究成果概要報告書

教育機関名 : 富山短期大学	助成金額 :	500 千円
研究代表者 : 角田香澄	所属 : 食物栄養学科	職位 : 講師
研究題目 : 食パンの副材料としてのエゴマの搾りかすの有用性に関する研究		

## 研究概要

エゴマは東南アジアに広く分布するシソ科の植物で、富山県をはじめとする日本各地で栽培されている。エゴマの種子を圧搾して得られるエゴマ油中には、 $\omega$ -3 系脂肪酸の 1 つである  $\alpha$ -リノレン酸が豊富に含まれており、がんや動脈硬化の予防効果があることが報告されている。さらに、ロスマリン酸等のポリフェノール類も含まれており、抗酸化作用や抗菌作用も期待される。エゴマ油の製造過程で生じるエゴマの搾りかすには、エゴマ油と同様に、 $\alpha$ -リノレン酸やポリフェノール類が残存しているにもかかわらず、一部が飲食物の加工の際に利用されるのみで、ほとんどが廃棄されている。

そこで、本研究では、廃棄されることが多いエゴマの搾りかすの有効利用を目的とし、我々の食生活においてなじみのある食品の 1 つである食パンの副材料としてのエゴマの搾りかすの有用性について検討した。有用性を検討するにあたり、主に、①エゴマの搾りかすの抗真菌作用の測定、②エゴマの搾りかすの抗菌作用の測定、③エゴマの搾りかす添加食パン中の  $\alpha$ -リノレン酸残存率の測定、④官能評価を実施した。

## 成果要約

## ①エゴマの搾りかすの抗真菌作用

エゴマの搾りかすを強力粉の 20% 量添加すると、30℃で 15 日間放置しても真菌の増殖が抑制された。抗真菌作用には、エゴマの搾りかす中に残存するロスマリン酸が関与する可能性がある。ロスマリン酸の水酸基が水素イオンを電離し、真菌細胞内の pH が変化した結果、細胞内酵素が不活化され真菌の増殖が抑制されたと考えられる。

## ②エゴマの搾りかすの抗菌作用

エゴマの搾りかすの添加の有無にかかわらず、食パンから大腸菌および大腸菌群は検出されなかった。

③エゴマの搾りかす添加食パン中の  $\alpha$ -リノレン酸残存率

焼成後の食パン中にも  $\alpha$ -リノレン酸が 95% 以上残存していた。抗真菌作用が確認された 20% エゴマの搾りかす添加食パンを 1 枚 (60g) 食べると、約 0.4g の  $\alpha$ -リノレン酸を摂取することが可能である。これは、10 歳代から 40 歳代の  $\omega$ -3 系脂肪酸の目安量 (日本人の食事摂取基準 2020 年版) の 1/4 にあたる。

## ④官能評価

「見た目」、「匂い」、「味」、「食感」、「食べやすさ」、「総合」の 6 点について、無添加食パンと抗真菌作用が確認された 20% エゴマの搾りかす添加食パンの官能評価を行った所、「匂い」のみ有意な差が見られなかった。食パンに添加してもエゴマの独特な香りは受け入れられる可能性がある。

研究成果発表状況	雑誌論文、学会発表、図書、新聞掲載、作成 Web ページ、特許権等の出願・取得状況		
	<u>学会発表</u> 1. 食パンの副材料としてのエゴマの搾りかすの有用性に関する検討 荒井晴香、竹内弘幸、奥井優華、 <u>角田香澄</u> (第70回日本栄養改善学会学術総会 ポスター発表)		
経費の執行状況	区 分	執行額(円)	備 考
	<b>【物品費】</b> 自動解析装置 (MODELCA-3305) エタノール (99.5%) 他 試薬 ピペット (10mL) チップ 防災クロス印刷学会ポスター インクカートリッジ・文具 他  <b>【旅費】</b> 交通費 (富山→名古屋) 第70回日本改善学会学術総会 (愛知)  <b>【謝金】</b>  <b>【その他】</b> 振込手数料 (学会ポスター印刷)	366,300 40,419 35,475 7,260 7,480 7,371  35,090  0  605	
	合計	500,000	